

❖ 科目名 Course Title			
中国語 I - 1			
❖ 担当教員 Instructor			
章 天明, 加藤 眞司			
❖ 開講学期 Semester	前期	❖ 対象学年 Year	1, 2, 3, 4
❖ 履修可能人数 Capacity	5名	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class			

❖ キーワード Key Words			
❖ 授業の目的 Course Objectives			
❖ 授業概要 Course Description			
<p>【加藤】 中国語の発音とピンイン [中国語の発音の表記法] を学びます。また、日常生活の様々なシーンで必要とされる中国語の力が身につくよう、基本的な文法をふまえつつ、話す（やり取り、表現）力・聞く力・読む力・書く力の習得を目指します。具体的には、受講者が授業に積極的に参加できるように、会話練習では学生同士でペアを組み練習を繰り返します。また、中国語を楽しく学び理解を深めるために、中国文化などについて触れながら授業を進めていきます。</p> <p>【章】 中国語の初級について、発音事項を中心に学び、以後の学習のための基礎的な力の習得を目指します。中国語の発音、基礎的な語彙・文法及び日常応用表現を学び、それをペアワークなどで繰り返して練習することにより、コミュニケーションに必要な最も基本的な表現が身につけられるようにします。</p>			
❖ 到達目標 Course Goals			
<p>【加藤】 中国語の正確な発音方法を習得し、基礎的な語彙や文法を用いて、身の回りのことについて、簡単な質疑応答ができるようになることを目標とします。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゆっくり話してもらえれば、基本的な表現を聞き取れること。 2. 単純な文を読んで理解できること。 3. 相手と簡単なやり取りができること。 4. 簡単な語句や語法を使って、簡単な中国語作文ができること。 <p>などを目標とします。</p> <p>【章】 中国語の入門から基礎の完成までの内容の学習により、学びはじめの段階から実用的な中国語でコミュニケーションができるようになることを目標にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音の基礎を学び、中国語を正確に発音できること。 ・基本的な文型・重要な語句を理解し、活用できること。 ・初級レベルの実用的なコミュニケーションができること。 			
❖ 授業計画 Course Schedule			
<p>【加藤】 最初は、中国語の発音方法を学習します。中国語の音に慣れるために、声調・母音・子音の発音訓練を繰り返します。その次に、基礎的語彙・文法に取り組み、理解を深めて、自然な中国語会話や中国語作文を学習していきます。主な学習項目は下記の通りです。 中国語の文字・発音・表記、人称代名詞、名前の尋ね方、形容詞、比較、「的」の用法、指示代名詞、動詞「是」「有」「在」の用法、選択疑問文、動詞、方位詞、完了「了」、金額の表現、前置詞、副詞、数詞、持続「着」</p> <p>【章】 発音練習では、母音・子音・声調の訓練を繰り返し、ピンインの発音を十分練習します。中国語の音に慣れた後、基礎語彙、簡単な基本文型を学び、「会話」、「トレーニング」、「リスニング」、及び「書取りテスト」、「口頭試験」などを用いて、初歩的な会話と文章を勉強します。</p>			

<p>❖成績評価Grading System</p> <p>【加藤】 学期末試験50%、小テスト25%、平常点（出席率・授業態度・課題）25%の総合評価。 授業回数（全15回）の1/3以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。（但し、やむを得ない事情の場合は速やかに申し出ること。）</p> <p>【章】 試験成績のほか、課題の完成度及び出席率、授業での積極性により総合的に評価する</p>
<p>❖テキストTextbooks</p> <p>【加藤】 ①『入門中国語—开开心心学漢語』上原徳子・張 廣慧・関 黎明(同学社、2300円＋税) ②適宜プリントを配布</p> <p>【章】 『中国語精選サラダ』劉郷英・嘉瀬達男・豊後宏記(朝日出版社)及びプリント</p>
<p>❖参考書Reading List</p>
<p>❖準備学習Homework</p> <p>【加藤】 学習事項の習得度を高めるために、適宜小テスト（リスニング・中国語作文）、発音試験（1回）を行います。</p> <p>事前学修：音声ファイルをダウンロードして、発音練習をして下さい。</p> <p>事後学修：学習事項の習得度を高めるために、適宜小テスト（リスニング・中国語作文）、発音試験（1回）を行います。音声ファイルを聴いて、発音練習・リスニングの練習を行って下さい。</p> <p>【章】 予習：授業前には、教科書付属のCDを利用して、発音を練習してください。</p> <p>復習：授業後、CDを利用して発音練習、本文の暗唱練習、および授業中配布した課題をしっかりとやってください。</p>
<p>❖オフィスアワーOffice Hour</p>
<p>❖連絡先（E-mail）E-mail</p>
<p>❖質問・相談への対応方法Contact Information</p>
<p>❖履修上の注意Notes</p> <p>【加藤】 学生へのメッセージ： 積極的に（授業中は大きな声を出す！など）授業に参加して下さい。中国語そして中国文化を楽しく学びましょう！</p>
<p>❖備考Other Information</p> <p>【章】学生へのメッセージ： ・予習と復習をしっかりと、授業中は楽しく学びましょう。 ・「書読百遍、其意自現」→「読書百遍義自ら見る」教科書の本文を何回も繰り返して朗読して、暗記してください。</p>

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。（例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。）

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。